

安心安全対策特別委員会中間報告

本特別委員会では、2つの事項についての審査をしてきました。

1つ目の「駐留軍等再編計画に伴う安心安全対策に関する事項」については、その都度報告を受け対応しました。2つ目「自然災害等に伴う安心安全対策に関する事項」については、東日本大震災や、過去に例を見ないような集中豪雨などがある中、市民の安心安全の確保のため、2年間調査研究しました。

委員から提出された「調査研究課題」の中から、まず、風水害における「避難」次に「情報伝達」について協議しました。その後、委員会初の試みとして、委員を「元町グループ」「栗谷グループ」に分け、現地で何度か聴き取り調査をするにより、その地域の現実や課題が理解できました。結果、共通課題として、「弥栄ダム決壊に対する市民の不安」「高齢化の問題」「自主防災会の育成」「防災意識の啓発の必要」「防災無線の問題」などが見えてきました。

「避難」については各々が同じでは無く、災害、地域、世帯によって避難方法はかわってきます。それが確認できたことは成果です。

課題の中でも、弥栄ダム決壊に対する市民の不安は、下流に住む方達にとって共通のものにとらえ、弥栄ダムに赴き、管理所長から話を伺い知識を深めました。

昨年度には、市の「土砂・浸水避難地図（ハザードマップ）」作成事業において、それまで協議、学習してきた経験を生かして、「避難所の見直し」「避難所への資材や食糧の備蓄について」「住民への周知の方法」「ハザードマップの活用方法」「ハザードマップへの記載内容」などについて、多く意見を述べさせていたいただきますので、内容の充実に貢献ができたものと考えています。

最後に、私も8名の委員に賜りました市長をはじめとする執行部、関係者の方々のご協力に深く感謝申し上げます。以上、感謝とお礼を申し上げます。皆様へのご報告といたします。ありがとうございます。

安心安全対策特別委員

委員長 日域 究
副委員長 細川 雅子
委員 児玉 朋也
寺岡 公章
二階堂 博
山崎 年一
原田 博
田中 実穂

岩国大竹道路対策特別委員会中間報告

本特別委員会は、国道2号の岩国大竹間の慢性的な渋滞解消のため、バイパス機能をもった道路の整備を目標とする岩国大竹道路を建設することを目的として設置され、平成23年9月から今まで8回の会議を重ねてきました。

これまでの審査の経過と現在の状況についてご報告します。

岩国大竹道路について、本委員会が引き継いだ当時、平成23年8月末で面積による進捗率が39.6%、契約金額では、66.2%の進捗率です。買収予定地は、御園2丁目からJRガード付近を通り国道2号線周辺に至る区域と元町地区ですが、御園地区の一部と元町地区においては、境界立会や地図訂正に予想以上に時間を要し、用地買収に遅れが生じているところです。

また、立退者への代替地の状況については、上下水道局前44区画、ゆめタウン南側1区画の合計45区画のうち、引渡し済みの区画が27区画あり、残り18区画が空き区画となっています。一方、晴海第1公園の商業者用代替地につきましても、商業者の方の代替地から一般分譲へ切り替えたこともあり10区画中9区画が売却されています。

現時点では、国においても完成年の想定ができないなど当初の建設予定よりかなり遅れが生じています。

平成25年5月末現在の進捗状況は、大竹市土地開発公社の買収分及び国の直接買収分を合わせて、面積で49.7%、金額で77.3%となります。

審査の状況は、以上ですが、本事業は大竹市の発展に欠かせないとの位置づけで、不安を抱えていると思われる多くの地権者や立退者の立場を尊重しながらも進めてきました。

この2年間、私も8名の委員に賜りました市当局をはじめとする関係各位のご協力に對しまして、心より感謝申し上げます。

岩国大竹道路対策特別委員

委員長 山本 孝三
副委員長 北林 隆
委員 大井 渉
藤井 馨
上野 克己
網谷 芳孝
乃美 晴一
西川 健三